

豊川市八幡地区工場跡地活用事業基本方針 豊川市

豊川市では「第6次豊川市総合計画」において、まちの未来像を「光・緑・人 輝くとよかわ」と定め、多くの人に住みたい、訪れたいと思っていただけるまちづくりを進めています。その下位計画である「豊川市都市計画マスタープラン」や「豊川市立地適正化計画」では、都市機能の集約や居住の誘導などにより、市民一人ひとりが暮らしやすさを実感でき、生涯にわたり住み続けたいとなるよう、コンパクトシティの考え方によるまちづくりを目指しています。

また、市長マニフェストでは、暮らしやすさや子育て支援などを重視した基本理念を示しています。

本事業の対象となる八幡地区工場跡地※(以下、対象地区という。)は、国道1号などの主要幹線道路や名古屋鉄道豊川線八幡駅に近接しており、交通網が充実した環境にあります。

また、対象地区を含むエリアについては、市の「八幡駅南地区計画」の中で、医療施設(豊川市民病院)、住宅地、商業地及び工業地などの多様な機能を集約した「戦略的にぎわい交流エリア」を形成することを目指しており、今後は総合保健センター(仮称)や大型商業施設の他、新文化会館の整備も計画されています。

本事業は、市が目指す八幡駅周辺地区におけるまちづくりの方向性を踏まえた“ゆとりあるまちづくり”を進めるべく、民間事業者による先導的なアイデアやノウハウを活かした戸建て住宅の供給によって対象地区における定住人口の確保の実現を目的として行うものです。

※別紙「地区計画図」のうちB-2地区

■第6次豊川市総合計画 まちの未来像



■豊川市都市計画マスタープラン 全体構想

上位計画におけるまちの未来像や都市づくりの基本理念に即するとともに、時代潮流を踏まえ、本市の豊かな歴史・文化的資源や自然環境の保全と活用を図り、都市の質や魅力を高めるとともに、多様な産業と多彩な交流を育むことで、50年後も100年後も市民が希望を持ち続け、豊かに暮らし続けることができる持続可能な都市の実現を目指します。



■豊川市立地適正化計画 まちづくりの方針

地域の特性に応じた都市機能が配置されたまち <ul style="list-style-type: none"> ・必要な都市機能の効率的な確保 ・主要な鉄道駅周辺への都市機能の配置 ・多世代の交流を促進する都市機能の配置 	安全・安心で住み続けられるコンパクトなまち <ul style="list-style-type: none"> ・生活利便性の高い拠点周辺への人口の集積 ・ゆとりある居住地の確保 ・自然災害に対し安全な地域への居住の誘導
誰もが都市機能にアクセスできるまち <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道4路線の高い利便性の維持 ・メリハリのある効率的な公共交通体系の形成 ・拠点を連絡する幹線道路ネットワークの形成 ・生活道路の安全と快適性の確保 	豊川らしさの発揮による活力とにぎわいのあるまち <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化資源等を活用した交流人口の拡大による地域経済の活性化 ・市民等が利用する商業機能の拡充 ・通動しやすい居住地の確保 ・広域交通を処理する道路ネットワークの確保

※第3次豊川市都市計画マスタープラン、豊川市立地適正化計画(令和2年度改定版) 令和3年3月改訂予定

■市長マニフェスト



八幡地区工場跡地活用事業の基本方針にかかる5つのキーワード

環境

- 環境保全や生活衛生に配慮し、緑や憩いの空間を充実するとともに、周辺環境と調和した良好な景観形成や再生可能エネルギーの活用に留意する。

安全・安心

- 防災、防犯、交通安全等の対策を適切に講じることにより、居住者及び来訪者の安全・安心を確保する。

豊かさ

- 主に子育て世帯向けの住宅供給を意識し、多世代が安心してゆとりある暮らしを長く続けられる住環境を確保する。

健康

- 子どもの健やかな成長や居住者の健康的な暮らしを支える住環境の形成に留意する。

にぎわい

- 八幡駅南地区の「戦略的にぎわい交流エリア」の一角を成す持続可能性を確保するとともに、活力あるコミュニティの形成や維持を促進する。

<別紙 地区計画図>

